

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 3月 5日

【評価実施概要】

事業所番号	0173800582		
法人名	有限会社 ライフケア		
事業所名	グループホーム ひまわり		
所在地	日高郡新ひだか町静内旭町1丁目30-29 (電話) 0146-43-3388		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成21年2月27日	評価確定日	平成21年3月30日

【情報提供票より】 (21年 1月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年 8月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	23 人	常勤11人、 非常勤12人、 常勤換算13.1人	

(2) 建物概要

建物構造	木造モルタル 造り
	1階建ての 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	水光熱費 13,000円	
			暖房費(11~4月) 10,000円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(50,000円)	有りの場合 償却の有無	有(2年間)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,300 円			

(4) 利用者の概要(1月1日現在)

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	4名	要介護2	1名		
要介護3	7名	要介護4	3名		
要介護5	3名	要支援2	0名		
年齢	平均 84.9歳	最低	67歳	最高	102歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	山田クリニック、 平野歯科
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームでは、利用者の状況に合わせ、介護型ユニットと生活型ユニットに分けて支援するという特徴を持ち、その人らしい生活が継続して営まれ、できるだけ自立をモットーとして職員の温かな支援が行なわれています。102歳で車椅子使用の利用者の笑顔が、このホームを象徴している思いがします。内科医である運営者と経験豊かな管理者と職員が、家族と共に認知症と言う特性に挑戦している姿は、ホームのサービスが地にしっかりと根付いて大人の空間すら連想させています。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の課題である「地域との付き合い」「運営推進会議を活かした取り組み」「同業者との交流を通じた向上」「災害対策」はそれぞれを運営者及び職員が真摯なかつ前向きな対応で、改善と一部改善の途中にあります。今回の評価でも継続とされた各課題について果敢な取り組みが期待されます。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営者と管理者及び職員は自己評価の意義を理解して、日頃のサービスに関して振り返りや気付きなどの反省に努めていますが、自己評価には十分反映されていません。評価の意義を再考され、職員による自己評価の取り組みが十分に反映されるよう取り組みを期待します。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>3ヵ月に1回運営推進会議が行なわれ、入居状況、活動内容報告、今後の予定、課題の話し合いを行なうほか、開催する場所も色々検討するなど苦労されていますが、参加者の固定化の傾向も感じられますので、多くの家族や幅広いメンバーの人選と会議内容の柔軟さを導入して、運営推進会議が地域の方々にも容易に受け入れられる取り組みが期待されます。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の来訪時を利用した意見や要望などを聞くように努めています。また、意見箱を設置するほか、ホーム内の窓口や第三者の窓口も紹介するなど、意見や要望、苦情をホームの運営に反映しようとする姿勢が強く感じます。聞き取られた意見などは連絡ノートに記載して、ホーム全体で対応し、サービスの質の向上に反映させるようにしています。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>前回の評価で課題となっていました。町内会で行う長寿を祝う会に出席、小学校の演奏会に参加、近隣のボランティアの歌謡ショー、琴の演奏などがあり、利用者とは歓談しているほか、資源ごみの回収に協力や近隣の独居老人を招いてのクリスマス会を行なうなど、地域の方々の理解をいただきながら連携の輪が広がっています。</p>
重点項目④	

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの基本理念として、「住み慣れた地域で暮らせる社会を求めて」を基本とし、一人ひとりを尊重し、安心の中で、その人らしい生活を送ることのできる理念が作成されています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、理念を着実に日常のサービスに反映させるため、ミーティングやケアカンファレンスで確認するよう努めています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内で行なう長寿を祝う会に参加、小学校の演奏会見学、近隣のボランティアの歌謡ショーや琴の演奏、また、近隣の独居老人の方を招いてのクリスマス会、資源ごみの回収にも協力するなど、地域の方々との交流の輪が広がっています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の取り組みについては、職員から評価の意義の理解が得られているものの、作成の段階では職員の振り返りや気付きなどが、あまり反映されることなく作られています。	○	改めて職員全員が自己評価作成の意義を認識しながら、日頃のサービス提供についての気付きや反省をし、改善に向けた活用への取り組みを今後期待します。

新ひだか町 グループホーム ひまわり

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、3ヵ月毎に開催され利用者の状況、活動報告、ホームでの検討事項など、今後に向けた取り組みなどについて、話し合いが行なわれていますが、家族の出席が少なく、また、会議の内容も柔軟性に欠ける傾向が視えます。	○	全ての家族に声かけを行ないながら、メンバーの幅を広げる対応が求められます。また、会議内容も出席メンバーにも役立つ魅力に富んだものとするなど、柔軟な発想での取り組みを期待します。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域広域連合会の地域ケア会議に出席し、担当者からの助言や相談、検討する機会を利用して、サービスの質の向上に取り組んでいます。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2ヵ月に1回「ひまわり便り」を作成し家族のもとへ送付されています。また、2ヵ月毎に担当スタッフから状況報告が郵送されるほか、家族の来訪時には、利用者の生活の様子や心身の状況を報告し、来訪の少ない方や遠方の方には随時電話で報告が行なわれています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見や要望など、機会を捉えて気軽に話し合える関係作りができており、「意見箱」の設置のほか、第三者窓口の紹介もされるなど苦情対応の体制ができています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は比較的少ない現況ですが、異動が生じた場合は、スタッフ全員でカバーしながら、安心して生活できるケアの取り組みが行なわれています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部及び内部研修は、希望者が参加ができるように勤務調整が行なわれてスキルアップに役立っています。外部研修では研修内容をミーティング時に発表したり、報告書に記入して知識の共有が図られています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	広域連合グループホーム協議会に加入しながら、地区内のグループホーム見学を行ったり、研修、交流が行なわれています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には何度かホームの見学や一緒に食事など体験をしていただきます。管理者はこれまで住まれた病院、自宅訪問などを行ない、家族とも相談しながら、利用者の視点に立ったサービスの支援が行なわれています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	共に生活する環境作りのなかで、できることはしていただき、必ず感謝を伝えています。利用者との生活を共有する中で、喜怒哀楽と思いを共感し、支え合い、お互いが安心のできる関係作りと共に、一人ひとりの状況に合わせて共に過ごせる時間ができています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや希望に添いながら、気づきを記録し、日々の係わりの中で声かけにより把握に努めています。意思の疎通に困難をきたした時は家族に相談しながら、思いや、意向の把握をするようにし、あくまで利用者本位に検討が行なわれています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	担当者が作る計画の原案をもとに、月2回のミーティングでほかの職員の意見やアイデアが取り入れられ、かつ、利用者や家族に開示し、その意見が取り入れられ、利用者本位の短期計画から長期計画へと介護計画が作られています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月に1回モニタリングが行なわれ、特変時には、その都度見直しも行なわれるなど、利用者の状況変化に合わせた適切な見直しが行なわれています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	買物、病院受診の送迎や付き添い、外出外泊支援、配偶者の安否確認、理・美容院への支援など、柔軟な支援が行なわれています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のかかりつけ医の受診、協力医による隔週往診、訪問看護職員の隔週訪問のほか、24時間の電話対応があり、日常の健康管理の支援が十分に行なわれています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居に際して、健康状態が悪化した時の対応指針及び看取り介護について説明があり、終末期の生活支援について、家族、かかりつけ医を含めた話し合いが行なわれており、文書をとりかわして希望に沿う支援が行なわれています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりを尊重し、自然なさりげない対応がされており、職員のプライバシーを尊重した姿勢が見られます。記録等も記載方法に配慮がされて個人情報の重要性は職員が共有しています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、日々のゆったりした暮らしの中で、個別性の気づきを感じながら支援が行なわれています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	美味しく食べていただく献立では、味付けに工夫を行ないながら、利用者に合わせて、ゆっくりとした支援がされています。後片付けなどできることを一緒にしながら、対応が可能な一人ひとりの能力に合わせた支援が行なわれています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回、希望に合わせた入浴支援が行なわれています。状況にあわせたシャワー浴、清拭、足浴などの対応がされています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者のできることをしていただき家事と一緒にしないながら、自信を持って暮らせるよう支援しています。、編み物、壁の飾り物、読書、手芸など趣味の継続など、希望に添った支援が行なわれています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候により散歩や買物など、また、散髪、外来受診などが支援されています。また、利用者の希望があればドライブ、お花見、お寺参り、町内の行事など等、外気に触れる支援が行なわれています。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間のみ、防犯対策として午後8時から翌朝6時30分まで施錠が行なわれています。日中は見守りによりユニット間及び玄関の施錠はされていません。		

新ひだか町 グループホーム ひまわり

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導をいただいて、非常口を増設するなどの前向きな対応が見られます。年2回の避難訓練が行なわれており、緊急連絡網が作られています。地震災害を含めた防災など、地域との連携がまだ十分ではありません。	○	地震の多発地帯であることを鑑み、消防署、町内会、地域住民を巻き込んだ、昼夜、季節を問わない具体的な防災訓練を今後期待します。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は調理専門の職員が両ユニット分を作っています。栄養バランスや味付けも工夫されており利用者は残さず食べています。食事量や水分摂取量が、毎日チェックがなされ、一人ひとりに合わせた支援が行なわれています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	介護ユニットと生活ユニットが廊下でつながり、居間に設えた畳のコーナーには季節の雛壇が飾られています。採光の良いサロンには花々が咲き、皆さんで団欒されたり、お昼寝をしたりと、ゆったりとした時間が流れています。また、一人で過ごす場所も確保され、利用者本位の工夫がなされています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や馴染みの家具が持ち込まれ、手芸の作品を飾るなど、安心できる居心地の良い居室となっています。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。